

大学生たちが工夫を凝らして作った紙の容器に卵を入れ、高いところから落としても卵が割れないことを競うコンテストが、大阪・寝屋川市（ねやがわ）で行われました。

このコンテストは、大阪・寝屋川市にある大学が毎年行っているもので、工学部の基礎理工学科にこの春入学した1年生21チーム、あわせておよそ70人が参加しました。

コンテストは、チームごとにそれぞれ同じ大きさと材質の紙で作った容器に卵を入れ、およそ15メートルの高さから落としても割れないよう技術を競います。

容器は、パラシュートのようにして空気抵抗を受けやすくしたり、ヘリコプターのように回転させて落下のスピードを遅くしたりするなど、さまざまに工夫が取り入れられていて、落ちた卵が割れていないことがわかると、学生や教員から大きな拍手や歓声がおきていました。

コンテストの結果は、割れなかった卵が12個、割れた卵が9個でした。

参加した学生は、「自分達のチームは卵が割れてしまい悔しかったです。最初はくだらないと思っていました。研究を重ねてまたやってみたいと思いましたが、研究を重ねてまたやってみたくて思いました」と話していました。